

岩手県感染症週報

令和8年第20週（5月11日～5月17日）

岩手県感染症情報センター

第20週

1 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

2 類感染症

- 結核の報告が2例ありました。

3 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

4 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

5 類感染症（全数把握対象疾患）

- 患者発生の報告はありませんでした。
- 今年は国内で麻しん（はしか）の報告が多く、注意が必要です。麻しんは空気感染、飛沫感染、接触感染で広がり、マスクの着用では十分に予防することができません。母子健康手帳などで自身や子供のワクチン接種歴を確認し、2回の接種歴が確認できない場合は医療機関に相談しましょう。

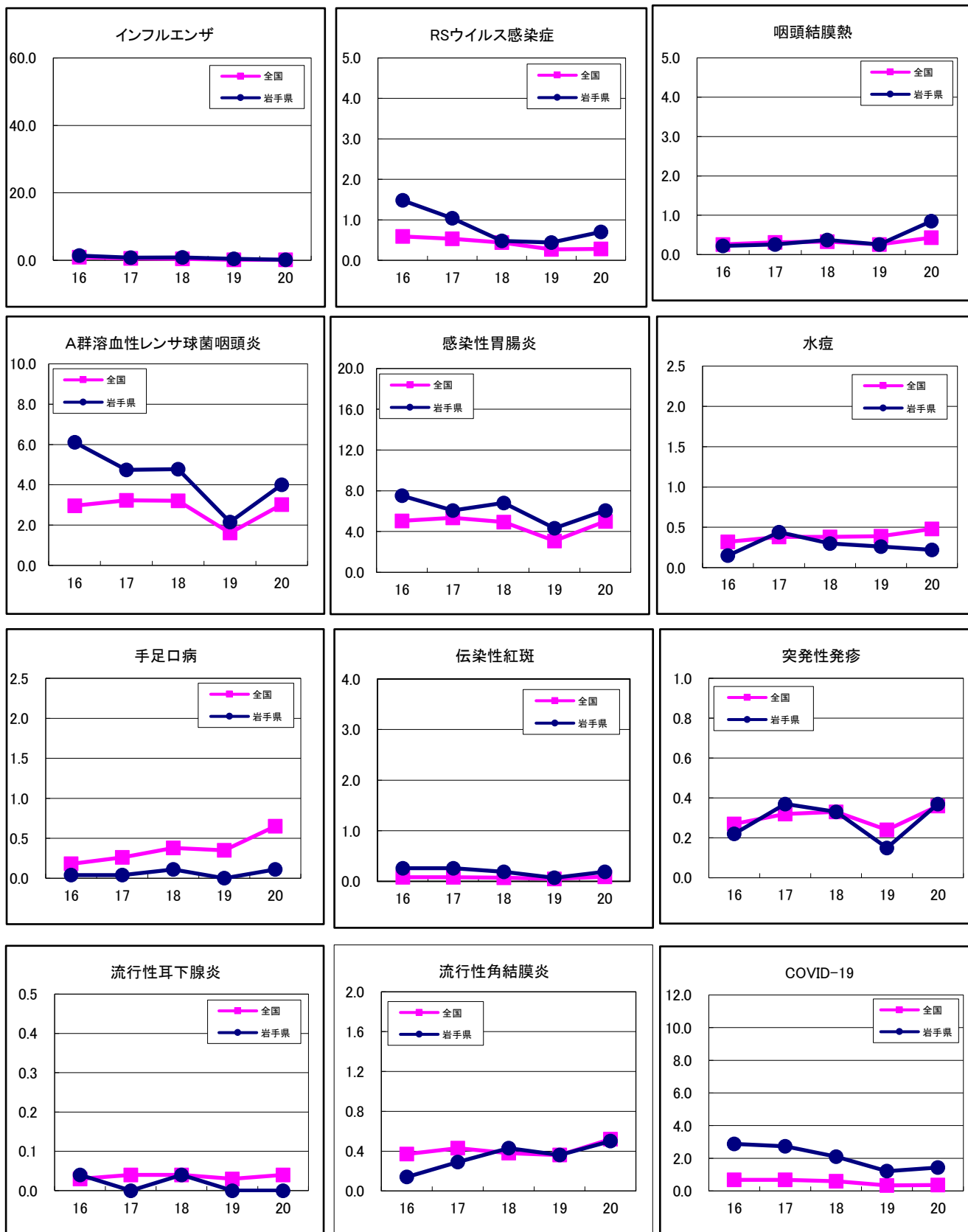
5 類感染症（定点把握対象疾患）

- 感染性胃腸炎の定点当たり患者数は6.07人となりました。中部地区の教育保育施設と高齢者施設では、ノロウイルスによる集団発生事例が2件ありました。胃腸炎ウイルスは消毒用アルコールが効きにくいいため、石けんと流水による手洗いが重要です。調理や食事の前、トイレの後は手洗いをしましょう。
- 溶連菌咽頭炎の定点当たり患者数は4.00人となりました。本症は発熱や全身倦怠感、咽頭痛を主症状とする細菌感染症です。予防には、患者との濃厚接触を避けること、手洗いの励行、咳エチケットが有効です。
- 咽頭結膜熱の定点当たり患者数は0.85人となりました。宮古地区では警報値(3.0人)に達しています。本症は発熱、咽頭炎、眼症状を主症状とする小児の急性ウイルス感染症です。夏に報告数が増える傾向があり、プール熱とも呼ばれます。予防には患者との密接な接触を避ける、タオルは共用せず、流水と石けんによる手洗いを励行することが重要です。

「岩手県-新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



注目の疾患(定点当たり患者数の過去5週の動き)



定点把握対象疾患(過去5週の動き)

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

(定点当たり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		16	17	18	19	20	
インフルエンザ	岩手県	1.40	0.81	0.88	0.45	0.17	↓ ☆
	全国	0.92	0.61	0.41	0.18	0.14	
RSウイルス感染症	岩手県	1.48	1.04	0.48	0.44	0.70	↑ ☆
	全国	0.59	0.53	0.44	0.27	0.28	
咽頭結膜熱	岩手県	0.22	0.26	0.37	0.26	0.85	↑ ☆☆
	全国	0.26	0.31	0.33	0.26	0.43	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	6.11	4.74	4.78	2.15	4.00	↑ ☆
	全国	2.96	3.23	3.21	1.61	3.02	
感染性胃腸炎	岩手県	7.52	6.07	6.81	4.33	6.07	↑ ☆
	全国	5.06	5.35	4.94	3.09	5.01	
水痘	岩手県	0.15	0.44	0.30	0.26	0.22	↓ ☆
	全国	0.32	0.38	0.38	0.39	0.48	
手足口病	岩手県	0.04	0.04	0.11	0.00	0.11	↑ ☆
	全国	0.18	0.26	0.38	0.35	0.65	
伝染性紅斑	岩手県	0.26	0.26	0.19	0.07	0.19	↑ ☆
	全国	0.08	0.08	0.07	0.05	0.09	
突発性発疹	岩手県	0.22	0.37	0.33	0.15	0.37	↑ ☆
	全国	0.27	0.32	0.33	0.24	0.36	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	→
	全国	0.05	0.06	0.09	0.06	0.15	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.04	0.00	0.04	0.00	0.00	→
	全国	0.03	0.04	0.04	0.03	0.04	
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	
流行性角結膜炎	岩手県	0.14	0.29	0.43	0.36	0.50	↑ ☆
	全国	0.37	0.43	0.38	0.36	0.52	
新型コロナウイルス感染症	岩手県	2.88	2.74	2.10	1.21	1.43	↑ ☆
	全国	0.68	0.68	0.59	0.34	0.37	
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.05	0.05	0.00	0.00	→
	全国	0.05	0.05	0.05	0.02	0.03	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.00	0.21	0.26	0.26	0.16	↓ ☆
	全国	0.17	0.16	0.18	0.17	0.16	
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.37	0.32	0.37	0.26	0.26	→ ☆
	全国	0.07	0.09	0.08	0.06	0.06	
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	1	1	3	0	0	
	全国	47	41	43	33	23	
急性呼吸器感染症 (ARI)	岩手県	80.43	84.33	85.38	55.33	75.05	↑
	全国	49.95	56.35	57.69	36.32	47.59	

※2025年4月7日より急性呼吸器感染症(ARI)が定点把握対象疾患となりました。

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症(定点把握対象疾患)から5類感染症(全数把握対象疾患)へ変更されました。

全数把握対象疾患(過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		16	17	18	19	20		20	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (0)	2 (1)	3 (3)	3 (0)	2 (1)	38	254	5208
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	33
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	6	65	772
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	13
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	5
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	10	249
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	11	92
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	6
	エムポックス	0	0	0	0	0	0	5	57
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	1
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサスル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	10	49
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	1	1
	つつが虫病	1	0	0	0	0	1	3	48
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	31
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	20	69
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	13	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	6	38	654	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	4	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患(続き)(過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 16	17	18	19	20	累計	20 累計	
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	7	179
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	3	71
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	0	1	15	367
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	8
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	6	177
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	4	1	62
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	1	0	6	22	564
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	15	324
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	12
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	16	223
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	5	28
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	9	66	1294
	水痘 (入院例)	1	1	0	0	0	7	18	302
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	多剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	6	43
	梅毒	1	0	0	0	0	10	147	4084
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	70
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	35
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	38
	百日咳	0	0	0	0	0	16	133	2862
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	2
麻しん	0	0	0	0	0	4	17	498	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	6	

※2026年4月6日より、多剤耐性緑膿菌感染症が5類感染症(全数把握対象疾患)となりました。

今注目の感染症

急性呼吸器感染症 (ARI)

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。これにより、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのような流行しやすい急性呼吸器感染症の流行の動向を把握することができ、また、仮に未知の呼吸器感染症が発生し始めた場合に迅速に探知することが可能となります。

急性呼吸器感染症に対する予防方法として、基本的な感染症対策である換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの実施が有効です。

なお、県内の急性呼吸器感染症の発生状況(速報)については、岩手県感染症情報センターのホームページをご覧ください。

【参考】急性呼吸器感染症(ARI) (厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/ari.html>

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡したりすることがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年11月から増加し12月と1月から2月頃にピークを迎えます(図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、2024年では全国と同様の流行形態をとっており、第5週にピークを迎えました(図1及び2)。2025年は第11週にピーク(13.26人)となりました。今週の県内各保健所管内の定点あたり患者数は図3のとおりです。

2026年4月1日から第20週までの県内の集団発生事例は9件あり、ノロウイルスが7件、ロタウイルスが1件、その他のウイルスによるものが1件でした。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分にしながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

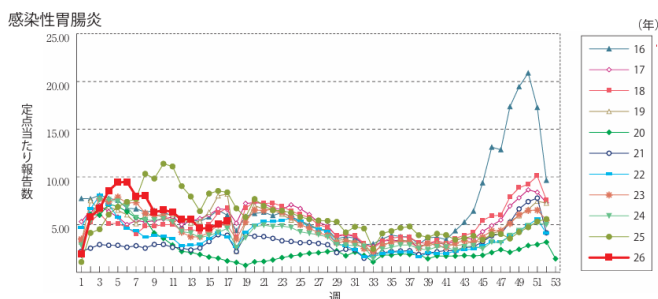


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況(2016年～2026年第17週)

(国立健康危機管理研究機構 HP より)

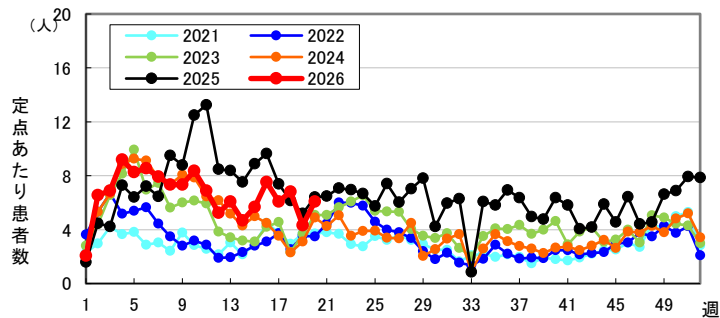


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況

(2021年～2026年第20週)

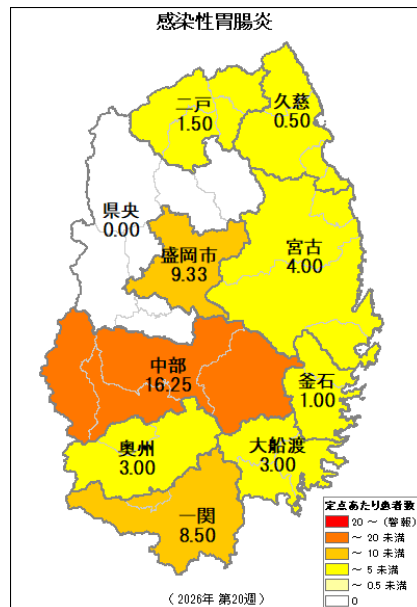


図3 第20週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

【参考】感染性胃腸炎(国立健康危機管理研究機構) <https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/intestinal/010/intestinal-intro.html>

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、*Orientia tsutsugamushi* (以下「菌」という。) によって引き起こされる感染症です。人から人へ感染することはありません。つつが虫病は、菌を保有するツツガムシ (ダニの一種) の幼虫に刺されることで感染します。

この菌を媒介する主なツツガムシは、アカツツガムシ、タテツツガムシ及びフトゲツツガムシの3種で、それぞれの一部 (0.1～3%程度) が菌を保有しています。本症は、これらツツガムシの幼虫の活動時期と密接に関係しており、季節により発生に変動がみられます。全国的には、春から初夏及び秋から初冬の2つの発生ピークがみられます。東北・北陸地方では、ツツガムシの一部が雪解けとともに活動を再開するため、春から初夏の患者数が秋から初冬より多い傾向があります。

岩手県では2025年に6名の患者が報告されています。2016年から2025年までの過去10年間の患者数は合計39名で、そのうち33名が第16週から第26週の間診断されています。したがって、4月中旬から6月下旬にかけて特に注意が必要です。

ツツガムシは一生の大半を土壌中で過ごし、その間は昆虫の卵などを餌として生活しています。卵から孵化した後、幼虫期にのみ哺乳動物に吸着して組織液を吸います。通常は野ネズミなどの小型哺乳類に寄生しますが、偶然ヒトに付着することもあります。この際、菌を保有したツツガムシに刺されることで感染が成立します。吸着時間は1～2日程度であり、ツツガムシから宿主への菌の移行にはおよそ6時間以上が必要とされています。なお、ツツガムシの幼虫の大きさは0.2～0.3 mmと非常に小さく、肉眼で識別することは困難です。

潜伏期間は5～14日で、全身倦怠感、食欲不振とともに、頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症します。体温は段階的に上昇し、数日で40℃程度に達することもあります。また、特徴的な刺し口 (刺し口) が皮膚の柔らかい部位 (腋窩、鼠径部など) にみられ、その後、数日で体幹部を中心に発疹が出現します。

テトラサイクリン系抗菌薬による治療が適切に行われると、速やかな症状の改善が認められます。しかし、治療が遅れると播種性血管内凝固症候群 (DIC) などを合併し、重症化して死亡に至ることがあります。

ワクチンはなく、最も重要な予防法はツツガムシの付着を防ぐことです。山や草地、田畑に入る際は、長袖・長ズボン、帽子等を着用し、肌の露出を極力少なくしてください。また、衣服の上からダニ忌避剤 (防虫剤) を使用することも有効です。休憩の際は草むらに直接座らず、できるだけ地面が露出した場所を選びましょう。帰宅後は速やかに入浴し、付着している可能性のあるツツガムシを洗い流してください。着用していた衣類も洗濯することが重要です。

※播種性血管内凝固症候群：全身の細小血管内で種がまかれるように血栓が形成され、血栓の材料となった血小板や凝固因子が消耗性に減少して、かえって出血傾向を来す病態。鼻出血や消化管出血、深部出血等が出現する。

【参考文献】

平山謙二. Simple Step 感染症. 海馬書房, 2015.

つつが虫病 (国立健康危機管理研究機構)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/Scrub-Typhus/010/tsutsugamushi.html>

つつが虫病について (厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000173061.html>



写真 ダニの刺し口

(国立健康危機管理研究機構ホームページより)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症（定点把握対象疾患）です。毎年、冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。主に飛沫感染や接触感染により伝播し、発熱、咽頭痛、全身倦怠感などの症状を引き起こします。

A群溶血性レンサ球菌は、通常は咽頭炎などの比較的軽症の感染症を引き起こしますが、まれに菌が血液や筋肉などに侵入し、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、菌血症などの重篤な感染症を引き起こすことがあります。これらのうち、急激に症状が進行し重篤化するものは、劇症型溶血性レンサ球菌感染症と呼ばれます。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌によって引き起こされますが、B群、C群、G群の溶血性レンサ球菌が原因となる場合もあります。本疾患は5類感染症の全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショックのほか、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群などを伴い、軟部組織炎などの病態とともに急激に進行し、死亡に至ることがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となっており、高齢者を中心に多く報告されているほか、妊産婦での報告もあります。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は、2020年第9週に6.20人のピークを示した後は減少し、低い水準で推移していました。しかし、2024年第20週以降再び増加し、2026年第16週には6.11人となり、過去5年間の同時期と比較して最も高い値となりました(図1)。また、2025年の劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は12人となり、過去10年間で2024年と並び最多となっています。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図2のとおりです。

溶血性レンサ球菌は、感染者や保菌者の咳やくしゃみなどの飛沫、または手指を介した接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいため注意が必要です。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行、手指のアルコール消毒
- (2) 咳エチケットの徹底
- (3) ドアノブやおもちゃ等の共有物の清掃・消毒
(溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等で死滅します)
- (4) タオルの共用を避ける
- (5) 傷口は清潔に保ち、症状がある場合には早めに医療機関を受診する

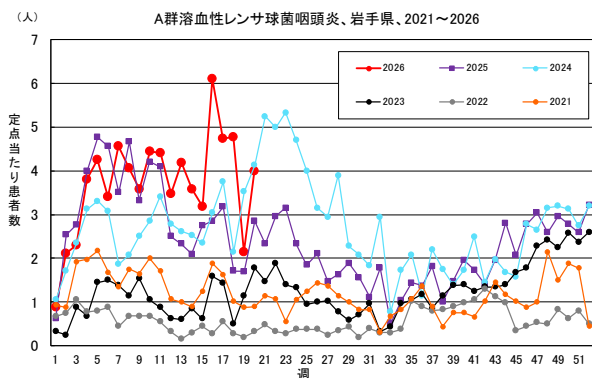


図1 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況(2021～2026年)

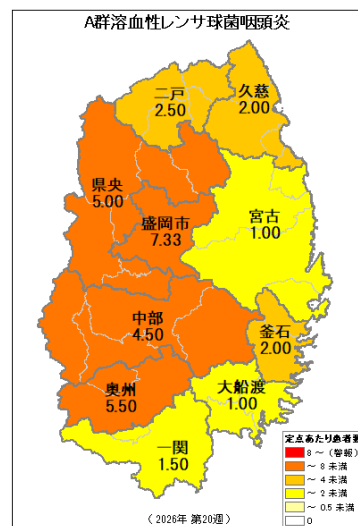


図2 第20週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。2023年第19週(5月8日～14日)から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2025年1月から2025年12月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2026年第20週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」(換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面)を避けるようにしましょう。

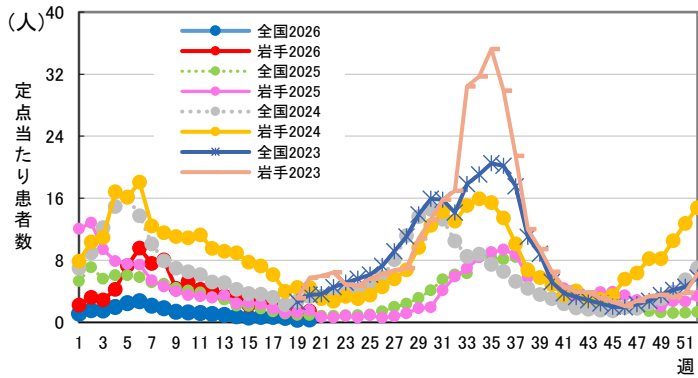


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第20週～)

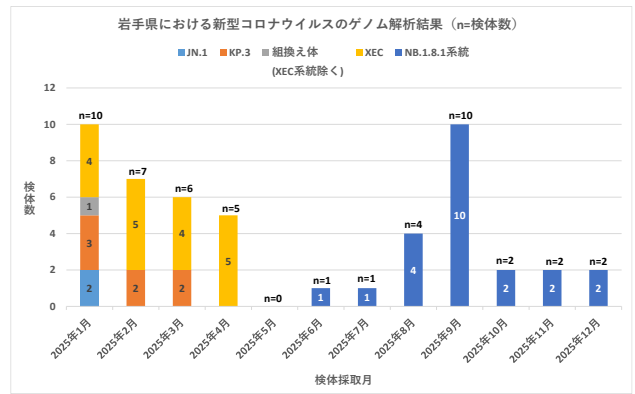


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果 (2025年1月～2025年12月)

【参考】

新型コロナウイルス感染症について (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連情報 (国立健康危機管理研究機構)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/coronavirus/index.html>

岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報

(行政区画データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、

同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)

報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

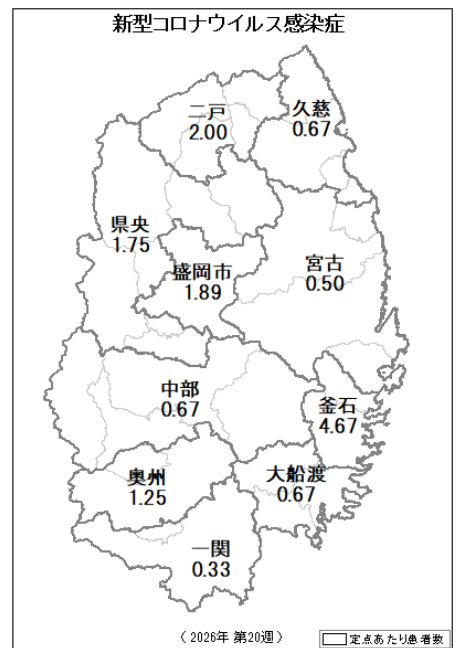


図3 第20週の保健所管内別の状況

岩手県の電話等相談窓口

県民医療相談センター

受付時間：平日9時から16時

TEL：019-629-9620 FAX：019-626-0837

岩手県救急医療電話相談ダイヤル「#7119」

受付時間：24時間365日

TEL：#7119 (ダイヤルまたはIP電話の場合は019-656-1774)

《15歳未満のお子さんに関するご相談》

岩手県小児救急医療電話相談「#8000」

受付時間：午後7時から翌朝8時まで 年中無休

TEL：#8000 (ダイヤルまたはIP電話の場合は019-605-9000)

《岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）ホームページ》

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

ホームページはこちら↓

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/1052939.html>

医療機関からの情報

この週には医療機関からの情報はありません。

Q&A

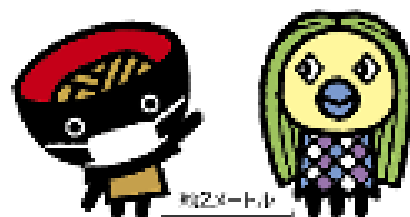
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡 1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667



集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について

岩手県 1件 盛岡市 1件

○感染性胃腸炎の集団発生について

No.	保健所	種別	患者の発症日	患者数(人)			検出された病原体(※)
				利用者	職員	合計	
1	中部保健所	教育・保育施設	4月17日～4月30日	22	2	24	ノロウイルス(1人)
2	中部保健所	高齢者施設	5月4日～5月12日	13	9	22	ノロウイルス(4人)
			計	35	11	46	

(※)検査の結果、病原体が検出された人数

【県内の発生状況】 (盛岡市分を含む、()内は年度累計、単位:件)

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他(サボウイルス等)	合計
令和8年4月1日～ 令和8年5月17日	7	1	1	9
令和7年4月1日～ 令和7年5月17日	10 (52)	0 (1)	4 (34)	14 (87)
令和6年4月1日～ 令和6年5月17日	5 (59)	0 (1)	2 (35)	7 (95)

○インフルエンザによる学校等休業措置について(第20週公表分)

岩手県 0件 盛岡市 0件

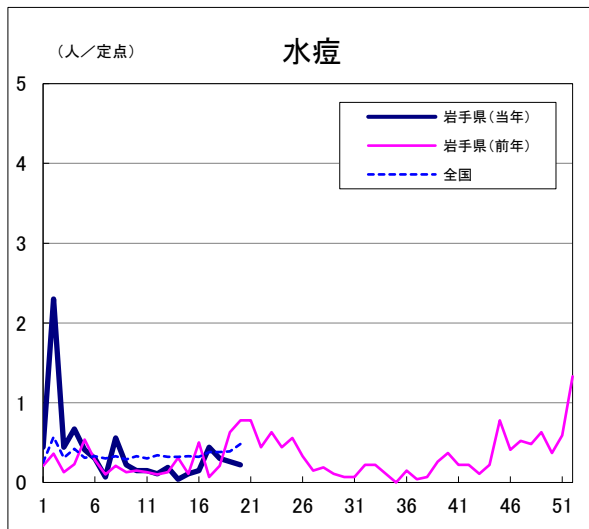
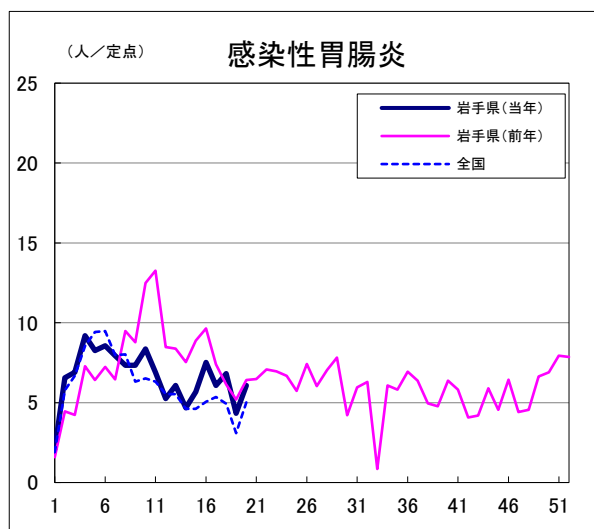
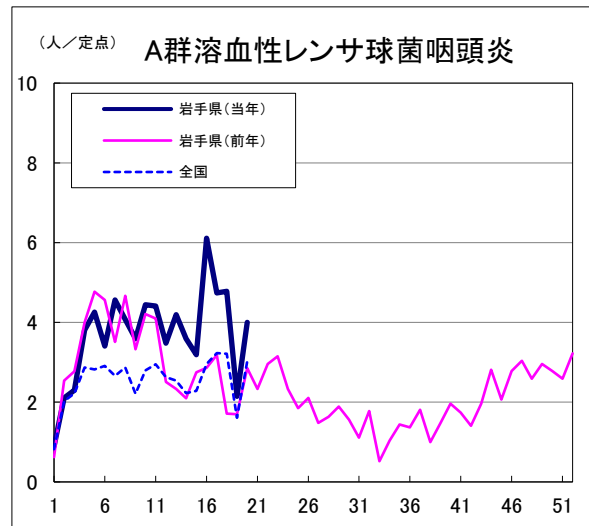
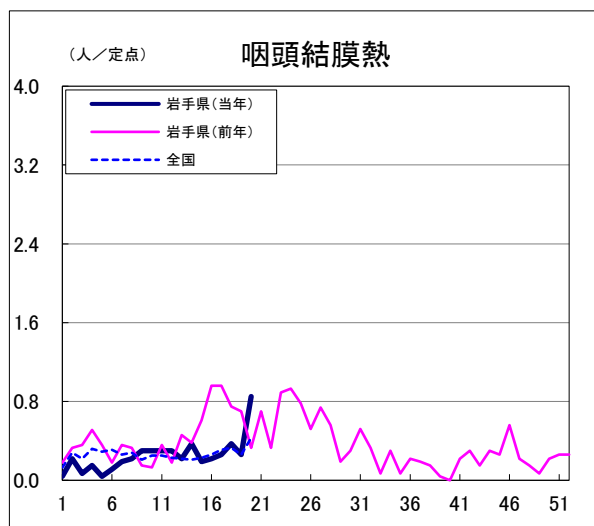
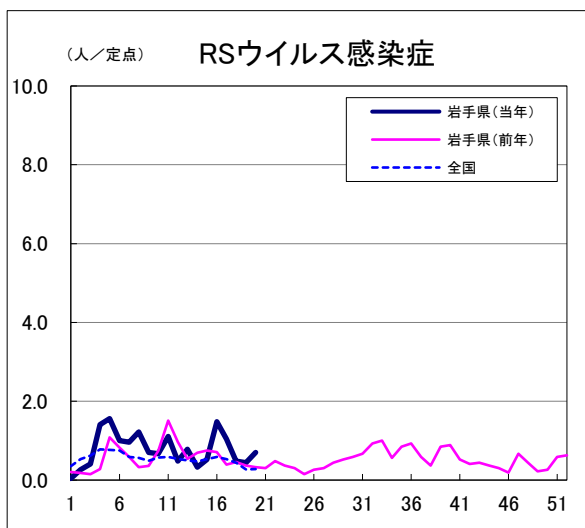
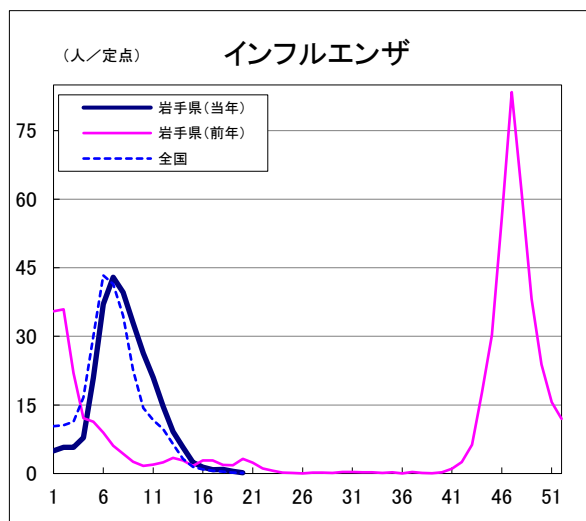
集団感染情報に関するお問合せ先
岩手県保健福祉部医療政策室
TEL 019-629-5417

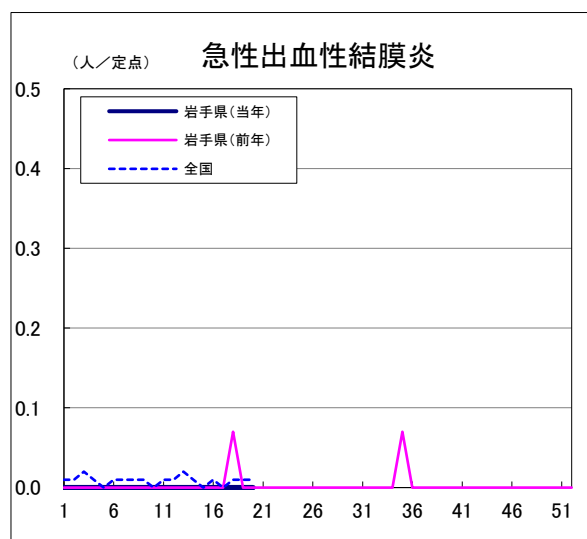
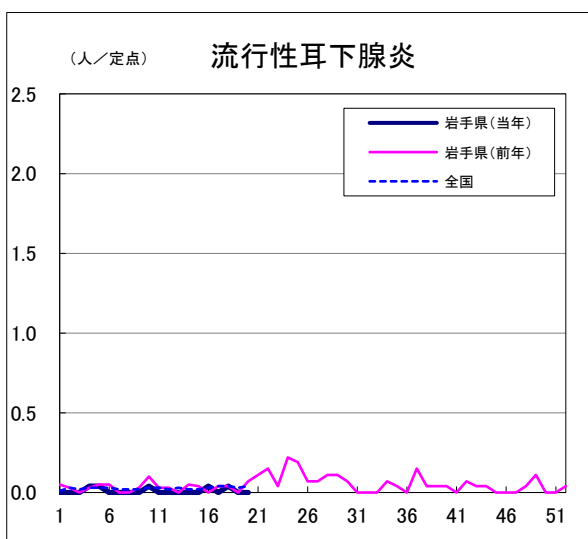
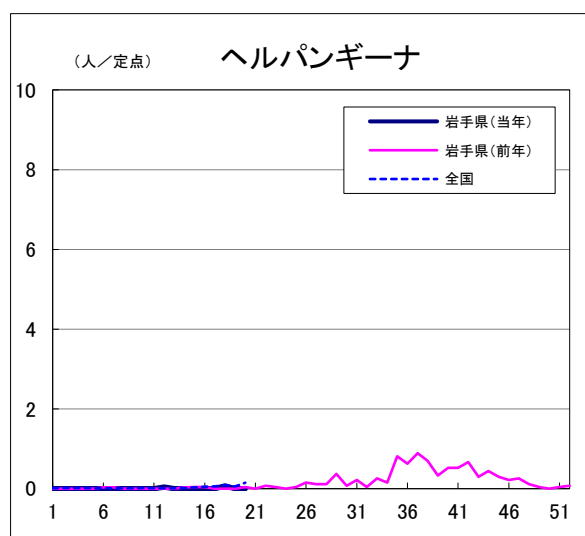
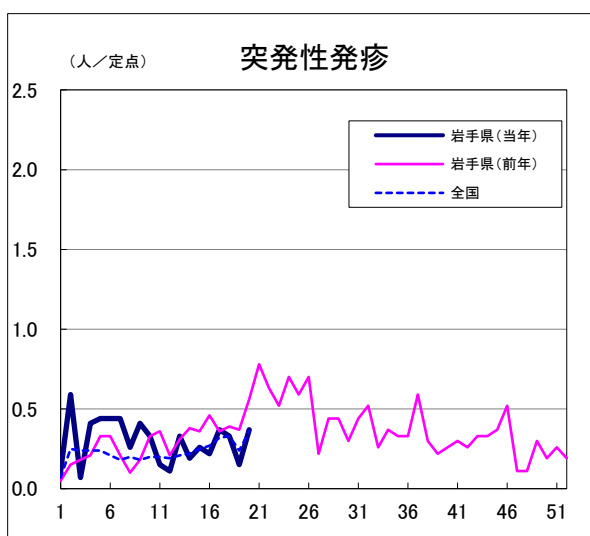
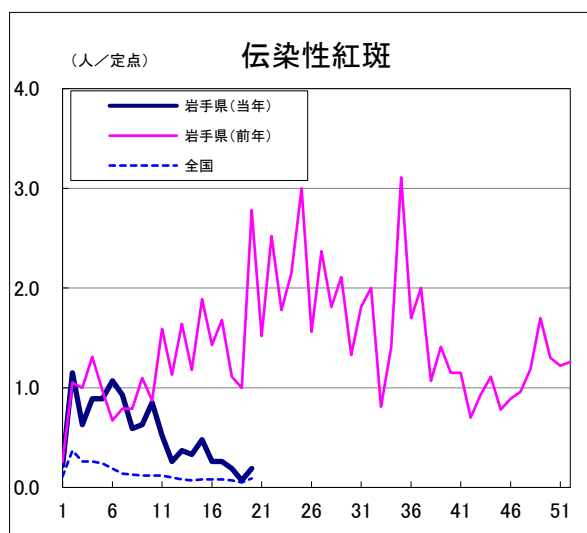
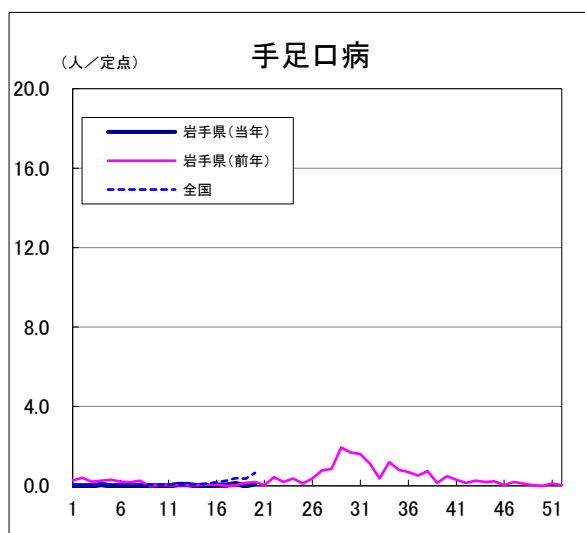
病原体検出情報

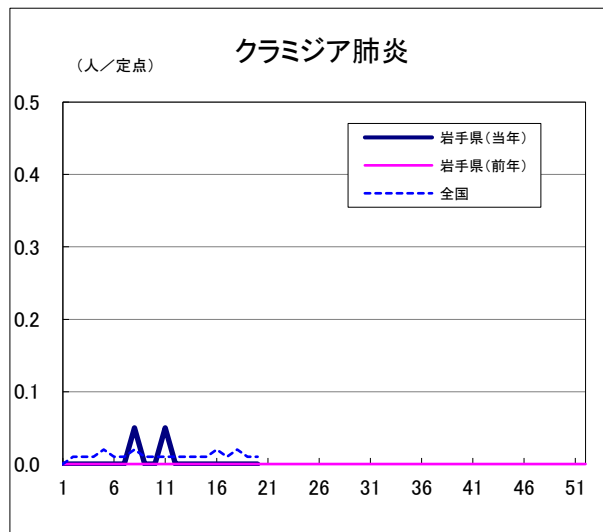
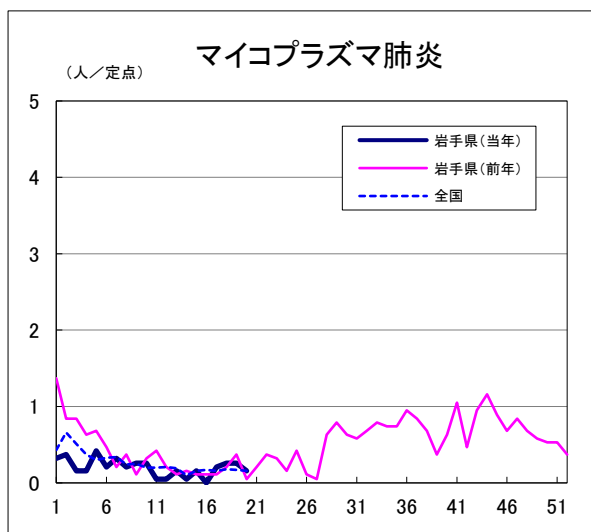
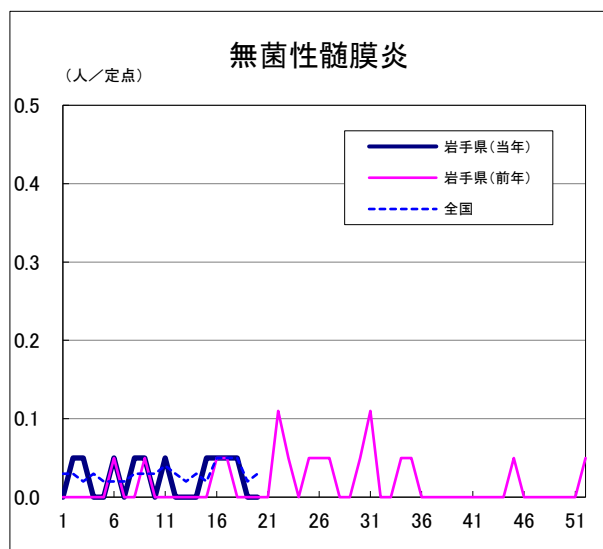
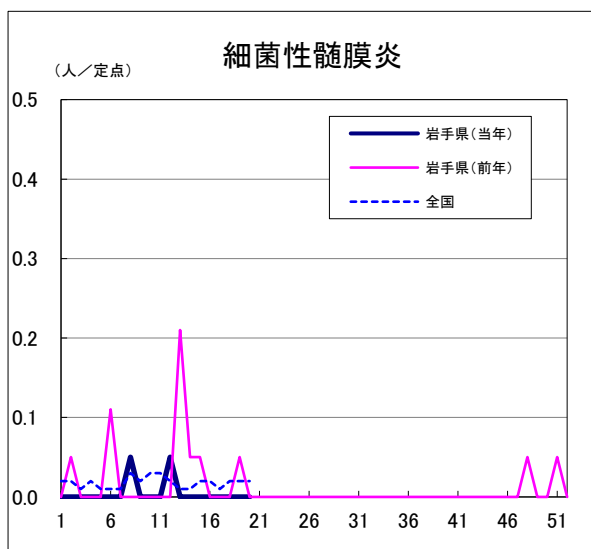
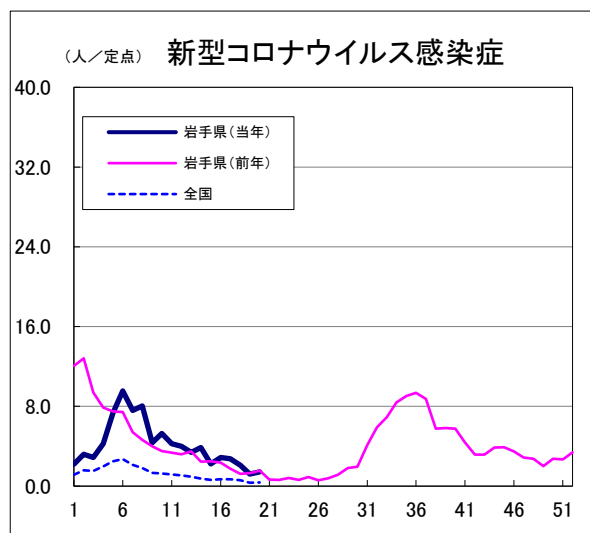
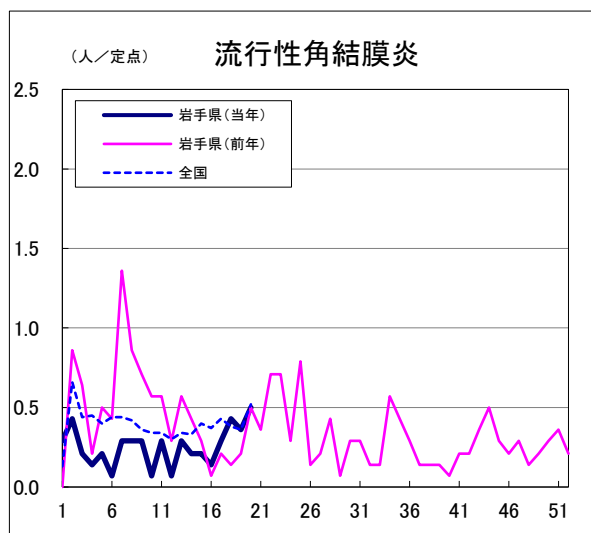
- ・ インフルエンザ患者の咽頭ぬぐい液3検体から、インフルエンザウイルスB型を3件検出しました。
- ・ 急性咽頭炎患者の咽頭ぬぐい液3検体から、ヒトコロナウイルスを1件、ヒトメタニューモウイルスを1件、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・ 急性気管支炎患者の咽頭ぬぐい液6検体から、パラインフルエンザウイルスを2件、ライノウイルスを4件検出しました。
- ・ 急性上気道炎患者の咽頭ぬぐい液4検体から、ライノウイルスを3件、RSウイルスを1件、A群溶血性レンサ球菌を1件検出しました。
- ・ 急性扁桃気管支炎患者の咽頭ぬぐい液1検体から、RSウイルスを1件検出しました。
- ・ 喘息性気管支炎患者の咽頭ぬぐい液1検体から、ライノウイルスを1件検出しました。
- ・ ヒトメタニューモウイルス感染症患者の咽頭ぬぐい液2検体から、ヒトメタニューモウイルスを2件検出しました。
- ・ 溶連菌感染症患者の咽頭ぬぐい液1検体から、A群溶血性レンサ球菌を1件、ライノウイルスを1件検出しました。

※1検体から複数の病原体を検出することがあります。

疾病別グラフ (定点当たり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	ARI定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	42	27	14	19
盛岡市	9	6	3	4
県央	4	3	2	1
中部	6	4	2	4
奥州	4	2	1	2
一関	3	2	1	2
大船渡	3	2	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	4	2	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

無料です!!

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下の URL からお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和8年第20週 令和8年5月22日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡 1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>